

舗装打換工（橋梁編）ハイウェイスラブボンド使用時）作業手順書			制定・改定日 2026.9.3
項 目	内 容	留 意 事 項	
準 備 工	- 作業内容及び規制内容の確認 - 作業人員及び車両配置の確認 - 使用資機材、保護具の点検・確認 ■現場での悪天候等による実施判断 前日：天気予報により工事担当者が判断 当日：天気予報により現場責任者と工事担当者が判断	- 資機材等落下災害及び飛散防止ネット転倒に関するKY活動を必ずいれて実施する。 - 指示内容確認・安全打合せ書による確認及びKY活動 - 作業別安全チェックシートの活用・マニフェストの確認 - 合材プラント及び廃材処理施設の確認 - 点検にて異常に気づいた場合は、使用せずに指定サービス工場で点検を受ける。	
舗装切断工	- 現場KYと安全確認（資機材等の落下災害防止、飛散防止ネット転倒防止） - ユニックにて切断機を荷台から路面に下ろし、給水を行う。 - 墨出しは、ポットホール等損傷個所の中心から縦断方向および横断方向の左右に1m（2m×2m=4㎡）を目安とする。※センターライン付近はこの限りではない。 - 既設舗装厚を確認し、墨出しに沿って刃を入れる。使用後、路肩に仮置きする場合は、歯止めを必ず設置する。	- 現地打合せを行い、作業方針を関係者へ周知する。 - センターライン付近の作業は、一般車に注意する。 - 橋梁上は舗装厚が薄い箇所があり、切断機で床版を傷つける事が無いよう注意が必要。 - 完了後、補修箇所にも雨水が溜まる事が無いよう道路勾配に配慮し、補修形状は平行四辺形（縦断方向は斜辺）とする。 - 冬期は凍結防止の為、タンク内は水抜きを行う。	
舗装取り壊し工	- ユニックにて荷台から飛散防止ネット（重量タイプ）を車線反対側に吊り下ろす。 - 飛散防止ネット（重量タイプ）の組立 ・施工箇所へ移動 ・ロープ及び土嚢による転倒防止対策実施 ・現場での確実な安全確認の実施体制（実施方法） ■点検項目 ロープ固定：控えの位置は適切か、たるみが無いか、注意喚起がされているか 土嚢固定：設置位置は適切か、設置数量は適切か、土嚢質量（10kg）は適切か 飛散防止ネット：隙間が無いか、破損して無いか、設置位置は適切か ■現場での悪天候等による実施判断 現場での悪天候等：作業中断する場合は、両柱に土嚢を1袋追加する。また中止にあっては、現場責任者から工事担当者へ報告を行い、工事担当者はHSCと調整の上、現場責任者へ中止指示を行う。 ・切断部に溜まった泥水をエアーで除去する。 ・ブレーカー等により既設舗装の取り壊しを行う。殻はもっこ等によりダンブに積み込む。 ・取り壊し完了後は綺麗に清掃し、検測を行う。	- 有資格者による作業を行う。（ユニック操作、玉掛） - 車線反対側の安全な場所で行い、留め金具等にてパネル連結を確実に行う。 - 四隅に4人配置し、監視員の合図で移動を行う。（一般車に注意） - 車線反対側の両柱上部をロープにより車両または防護柵等へ固定する。且つ、同柱の1/3の位置にカラビナ付き土嚢（10kg）を2袋吊す。 ・点検項目①～③に沿って作業従事者全員で安全確認を実施する。 ※現場巡回、安全パトロールにおいても、必ず安全確認を実施 ・エアーホースの外れ止め確認。 ・耳栓・めがね・防振手袋等、作業に合った保護具を使用する。 ・舗装の脆弱部は全て取り除く。	
床版取り壊し工	- 点検ハンマーで床版脆弱部を確認し、補修範囲を決定する。 - エアーカッター等で縁切りを実施後、ブレーカー等により脆弱部の除去を行う。 - 取り壊し完了後は綺麗に清掃し、検測を行う。	- 床版と舗装の目地が一緒になる場合（鉛直線が同じになる場合）は、舗装を再度10cm上げた施工目地とする。※センターライン付近はこの限りではない - 耳栓・めがね・防振手袋等、作業に合った保護具を使用する。 - エアーホースの外れ止め確認。	
床版補修工	- PDプライマーの主剤、硬化剤（配合比2：1）を1分以上十分に攪拌し、施工面に塗布する。 - PDボンドの主剤、硬化剤（配合比3：1）を2分以上十分に攪拌し、施工面に塗布する。 - PD混和液を先に投入してからPDゴムラテポットパウダーを攪拌する。遅延材が必要な場合は先に混和液に入れる。（練り混ぜ時間の目安は120秒） - 縦断勾配の低い箇所より打設を行い、コテにて均す。 - PD混和液の5倍液を散布する。 ※5倍液＝PD混和液：水＝1：4 - 再度5倍液を散布し塗膜養生を実施する。 ※養生時間＝2時間	- 標準使用量は0.5kg/㎡、可使時間を確認の上、時間内に使用する。 - 標準使用量は0.8kg/㎡、可使時間と打設有効時間を確認の上、時間内に使用する。 - 標準使用量はPDゴムラテポットパウダー：1.923kg/㎡、PD混和液：232kg/㎡ - 気温が高い時期は遅延剤を入れて硬化時間を調整する。 - 表面乾燥を受け、コテすべりが悪くなるので、PD混和液の5倍液を散布する。散布した5倍液をなじませるように、直ちに木コテあるいはプラスチックコテを用いて表面を押さえる。押さえは1回程度で済ませる。 ※金コテは使用しない。 - 表面の急激な乾燥を抑制する。 - 安全データーシートを携行し対応する。 ・表面乾燥を受け、コテすべりが悪くなるので、PD混和液の5倍液を散布する。散布した5倍液をなじませるように、直ちに木コテあるいはプラスチックコテを用いて表面を押さえる。押さえは1回程度で済ませる。	
橋面防水工	- 床版水分計にて表面腹水率を測定する。 - 床版防水材の主剤と硬化剤を混合、攪拌する。 - ローラー刷毛にて床版防水材を均一に塗り斑なく塗布する。	- 床版表面温度、外気温が5℃以下では使用しない。 - 床版面が確実に清掃され滞水がないことを確認する。 - 表面含水率の基準値は200カウント（電気抵抗換算値）以下。 - 標準使用量は1.0kg/㎡、可使時間を確認の上、時間内に使用する。 - 適切な保護具を着用する。（安全データーシートに準ずる） - 安全データーシートを携行し対応する。	
舗設工	- As混合物運搬トラックを規制内へ誘導させ、到着温度を確認する。 - 人力にてAs混合物を均一に敷き均す。5cm以上深さがある場合は、2層打ちとする。	- 車両出入口明示を確実に施した上で規制内へ流入させる。 - 工場出荷温度から－20℃以下のAs混合物は使用しない。 - プラント毎に余盛量が違うので注意する。※管理表参照	
転圧工	- プレートコンパクター及び振動ローラーを併用し、所定回数転圧を行う。 - 施工打ち継ぎ目に防水テープを施す。	- ハンドガイドローラーによる転圧作業は縦断方向で行うこと。転圧しにくい場所は、プレートコンパクターを併用する。 - 転圧回数は、試験舗装で決められた回数とする。 - 機械使用後は、水抜きを行い、歯止めをかけて路肩側に設置する。 - 施工箇所の清掃、乾燥をする。 - テープのはく離紙の飛散に注意する。 - テープ貼付け後は、足またはローラーで付着させる。 - テープが確実に圧着しているか確認する。	
養 生	①転圧終了後、舗装温度が下がるまで養生を行う。 ②出来型検測を行う。	規制開放温度は、40℃以下で管理する。	
片付け	使用した道具、機材、余った材料等は、トラックに積み込み、最後に竹ぼうきなどで清掃する。	- 使用した道具等は、現場に忘れ物が無いように確認する。 - はつきりかす、合材かすが無い様に、綺麗に清掃する。	

作業編成（標準）		機材		資材	安全器具・保護具		
現場責任者	1 名	舗装切断機	角スコップ	水	J-tape	ヘルメット	消火器
作業員	4～6 名	コンプレッサー	竹ぼうき	PDプライマー		反射（自発光）チョッキ	防振手袋
現場監視員	1 名	ブレーカー	レーキ	PDボンド		警笛	
先端監視員	1～2 名	飛散防止ネット	振動ローラー	PDゴムラテポットパウダー		粉塵マスク	
		防水材溶解機	乳剤散布機	As混合物		保護メガネ	
		攪拌機	振動ローラー	ハイウェイスラブボンド		耳栓	

■注意事項（共通の指導事項）	
1.作業に適した保護具を着装する。	
2.センターライン付近の作業は十分注意する。	
3.各作業は、有資格者による作業を行うこと。	
4.はつり、清掃時、の小石等の一般車への飛散には、十分注意を行う。	
5.火災防止処置を行う事。（消火器の設置）	
6.手持ち式振動工具については取扱を十分理解し、使用する。	
7.作業で使用しない工具は、発電機を切るコンセントを抜き、誤作動がおこらないようにする。	
8.一人作業の禁止	
9.現場で作業手順を変更する場合は作業を中止して、現場責任者から工事担当者へ報告を行い、工事担当者はHSCと調整の上、現場責任者へ指示をだすものとする。	
10.埋設物（ケーブル・トラカン・路温計等）の確認を行う。	

ロープ固定



10kg×2袋

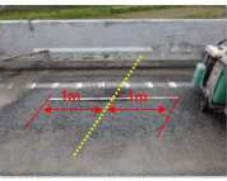
重量タイプ

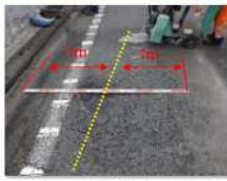


2021.12.17
保全計画

橋梁での舗装打換工の施工目地位置

施工目地からの侵水による舗装、床版の再劣化を防ぐ目的で、打替工時に施工目地をズラして補修する。





縦断方向

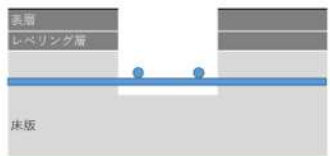
横断方向

◆舗装切削の目安〔2023.4.24追記〕

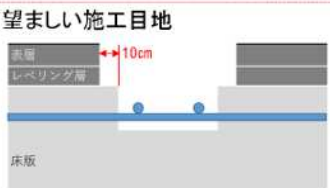
・ポットホール等損傷個所の中心から縦断方向および横断方向の左右へ1m（2m×2m＝4㎡）を目安とする。

・舗装を剥いだ後、床版を研り、床版と舗装の目地が一緒になる場合（鉛直線が同じになる場合）は、舗装を再度10cm上げた施工目地とする。

■現在の施工目地



■望ましい施工目地





NEXCO
中日本